

令和元年度 山野学苑事業報告

はじめに

山野学苑は、昭和9年に東京、日本橋に美容師養成事業の端緒となる山野美容講習所を創立、昭和29年には学校法人山野高等美容学校を設立し、以来、美道五大原則を教育理念に今年で87年の歴史を迎える。

この間、国内最大級の美容学校である山野美容専門学校、我が国初となる美容の高等教育機関である山野美容芸術短期大学を設立、更には山野日本語学校を開設し、世界で活躍のできる人財の育成に努め、今日に至っている。

また、山野学苑は日本で初めて「美容福祉」を提唱し、更に超高齢社会の諸問題を学際的に研究する「美齢学・ジェロントロジー」教育を普及・教授し、米国USC、青山学院大学、大阪大学等と連携をしながら、新たに「美齢学」を構築するための美齢学研究センターを設立し、社会のニーズに対応した教育体制の整備を目指している。

《短期大学》

【全般】

令和元年度は、事業計画と併せ事業運営の計画を明確にしていくため、5年間の中期計画を策定した。

その中で、改めて建学の精神を再認識し、建学の精神を具現化する学科の将来像を示した。令和元年度は、その実現に向け様々な取り組みを進めてきた。

①教育

教育にあっては、学習成果の可視化を第1にあげ、IR活動による外部評価や、学修時間・学修行動の実態把握、入学者調査など量的・質的データを積み重ね、分析・評価を進めた。

3つのポリシーの点検を行うとともに、アセスメントポリシーに基づく学習成果カルテ（ルーブリック）見直しのために自己点検評価・改善委員会によりワーキンググループを立ち上げ、精査し一部改正を行った。また、学習成果カルテは、主観的評価の観点が強いことから、GPAの他にも客観的評価の観点を加えるため、外部の標準化されたアセスメント・テスト（PROG）を導入した。

②カリキュラム

カリキュラムにあっては、ナンバリング制を導入した。カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップ、CAP制等と合わせ、ディプロマポリシーの更なる理解の手助けとなるとともに、3つのポリシーの点検にも寄与できる

と期待している。シラバスにおいても、評価のフィードバック方法の項目を追加した。

学生が本学での学びを理解し、学生自身が成長をより実感できるよう、今後も教育の質保証システムへの転換を目指していく。

③授業方法

授業方法にあっては、学生の主体的学び（アクティブラーニング）を進めるため、FD／SDの研修を進め、PBLの授業方法も積極的に取り入れた。また、授業アンケートを年間4回実施し、期中の授業改善等につなげている。評価の高い授業にあっては、教員相互の授業参観を実施した。

この他に、本学の理念を実現するための授業スタンスなどをインストラクションスタンダードとして定めるべく審議を進めた。

④教員評価

教員評価にあっては、昨年度策定した指標による評価を行い、優秀な教員への顕彰を行った。

⑤入試

入試制度改革に向け、アドミッション・オフィサーを新たに2名任命し、3名の体制とした。

⑥学生支援

学生支援としては、外部機関のプログラム研修を非常勤講師も含めた教職員が受講した。4月オリエンテーションにおいて、そのプログラムを実践し、個々の学生を掌握し、支援していく体制を整えた。

また、本学には留学生も多く在籍しており、ゼミ担当教員を増強し、支援体制・指導体制を強化した。次年度に向けては、大学組織としての管理体制を改めて見直し、教員個人の人々の努力もさることながら、組織として学生を支援し、指導していく体制とすべく、更なる改善を進める。

⑦その他

高等教育の修学支援新制度については、対象機関として認定された。

【将来構想計画の推進】

平成30年度に国際美容コミュニケーション専攻の入学定員の増加申請を行った。令和元年度この設置計画履行状況調査において、状況把握のため実地調査を受けた。その結果、定員を大幅に超過する一方、留学生の退学者を多く出していることについて指摘事項（是正）の意見が付された。この結果を真摯に受け止め、安定した大学運営とすべく体制の改善と整備を継続して進めていく。

現状の国際美容コミュニケーション専攻の入学定員の超過率については、大

きな課題と捉え、これまで、学科内の入学定員の移行による設定の見直しを検討してきた。しかし、短期大学の将来構想に関し、これからの急速な社会情勢の変化に対応し、将来的に持続可能な大学運営を行っていくためには、抜本的な改革が必要であるという認識のもと、学長室の将来構想会議等において、専門職大学への移行や、新専攻の設置など、様々な方向での検討を重ねてきた。

その結果、令和3年度(2021年度)より専攻を統合(学科改組)し、抜本的な改革を図ることを基本方針として定め、外部有識者の意見等も有効に活用して、より具体的な計画策定を推進している。

学科改組に際しては、平成30年11月文部科学省の「2040年に向けた高等教育のグランドデザインの答申」を踏まえたうえで、建学の精神である「美道の追求」を主眼によりアカデミックにカリキュラムを再構築し、「美道に基づく人間力の育成」を軸とした、本学の特色を最大限に活かした教育改革を行う。「美しく生きるために必要な能力を有し、美容を通じ広く国際社会に貢献しうる人材」を人材育成像とし、履修コース制とすることにより、これまでの専攻の横断的な学びを実現することと合わせ、新たな関連分野の学びにより、学びの広がりと深度をもった教育体系への再構築を目指す。

計画は、令和2年度(2020年度)に学科改組届出を提出する。

さらに、教育の質の更なる充実と向上を図ることを念頭に置き、社会人や留学生の受入れについても体制を強化すべく、多様なメディアの活用などについても検討を進める。

1 各専攻等の内容

(1) 美容デザイン専攻

美容師の国家資格が取得できる専攻である。幅広い教養と美容知識・技術の習得を通して課題を発見し、解決する能力を備え、他者のニーズを踏まえて「美」を表現するデザイン力、加えて国際性を兼ね備えた美容産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材の育成を主眼に教授を行った。

令和元年度は、本専攻の学習成果の一つである、美容師免許の取得について、実技試験、筆記試験共に美容師国家試験100%合格を達成することができた。

また、山野学苑が培ってきた美容福祉の継承の一翼を担う「介護職員初任者研修」も継続して実施した。

本専攻の中で、海外のサロンでの活躍や、国内においても英語での接客・コミュニケーション力を有し、グローバルな活躍を目指す学生に向けた、「グローバルスタイリストプログラム」を体系化しており、このプログラムを今後、履修証明プログラムとして展開していくこととして検討を進めている。

(2) エステティック専攻

幅広い教養と美容知識、技術の習得を通して、課題を発見し解決する能力を備え、人のからだの「美」について、生理学、栄養学、心理学など総合的な視点でとらえることができる力、加えて国際性を兼ね備えた、エステティック産業を中心とする多様な分野で活躍できる人材の育成を主眼に教授を行った。

この中で、体の内側から、キレイになるために必要な食や栄養、健康、オーガニックコスメなどに関する知識と技術を学ぶ、「インナービューティプログラム」、またエステティック国際ライセンスのC I D E S C Oの資格を取得し、グローバルな活躍を目指す学生に向けた、「グローバルビューティシャンプログラム」を展開した。令和元年度は、本専攻の学習成果の一つである、C I D E S C Oの資格認定について、受験者の100%合格を達成することができた。このことにより本専攻は、国際ライセンスC I D E S C O認定校となった。

(3) 国際美容コミュニケーション専攻

幅広い教養と美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、語学力や自国文化を含めた異文化理解などの国際性を兼ね備えた、サービス産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材の育成を主眼に教授を行った。

本専攻においては、日本文化、接客接遇、異文化理解、接客英語等を学び、「グローバルおもてなしマイスター」認定と、経済産業省が創設した「おもてなしスキルスタンダード」のベーシック認定を取得し、外国人対象にサービス産業での活躍できる人材育成を推進する。

令和元年度は、英語でのコミュニケーション力を活発化させるため、カリキュラムの大幅な見直しを行い、海外留学についても新たな進路拡大を図った。このことと合わせ、令和元年度より英語教育に関するサポートスタッフの配置を行い、英語教育センターの内装もディスカッションなどを実施しやすいよう改装した。

また、アメリカニューヨーク州立大学ジェームスタウンコミュニティカレッジから、短期インターンシップ生を受け入れ、学生との交流を図った。

(4) 専攻科芸術専攻

専攻科は、高度な美容技術やデザイン力、表現力を身につけた、「美容芸術」の体現者たる美容家の育成を主眼に教授を行った。美容技術のスキルアップと芸術としての美容の研究を目指し、授業では、絵画、彫刻、デザイン、写真等を通して表現力を高めながら、将来の仕事に生かせる実践的な美容技術や美容に関わる深い知識を身につけ、修了と同時に大学卒業と同等の学位「学士（芸

術学)」取得を目指した。

令和元年度にあつては、入学者はなかった。

(5) 日本語別科

国内の美容関連学科を有する大学又は専門学校に進学を希望する外国人に対し、日本語、日本事情、日本文化等を教授し、国際的視野に立つ美容界の理解者となる人材の育成を主眼に教授を行った。

2 卒業後の進路

(1) 美容デザイン専攻

区 分	人 員	占有率 (%)
美容室	63	68.48
化粧品	5	5.43
アイラッシュ	3	3.26
ブライダル	2	2.17
その他業界	7	7.61
進学	1	1.09
帰国	3	3.26
上記以外進路	8	8.70
計	92	

(2) エステティック専攻

区 分	人 員	占有率 (%)
エステ	19	55.88
化粧品	8	23.52
ネイル	1	2.94
その他業界	3	8.83
上記以外進路	3	8.83
計	34	

(3) 国際美容コミュニケーション専攻

区 分	人 員	占有率 (%)
ホテル	10	14.29
化粧品	8	11.43
外食	5	7.14
ネイル	3	4.29
アパレル	1	1.43
空港関係	1	1.43
その他業界	20	28.57
進学	4	5.71
上記以外進路	18	25.71
計	70	

(4) その他

留学生の日本国内美容業界への就職は専攻科生2名の計2名となった。

3 キャリアサポート

(1) キャリア支援センター

キャリア支援センターは、ゼミ担当教員並びにキャリア形成科目担当教員等と密接に連携を図りながら、就職先やインターンシップ先の開拓等、提携先を増やし学生に対して情報提供の充実に努めた。

令和元年度、新たな取り組みとして短期大学ならではの多様性と、きめ細かな指導體制を更に強化するため、国際美容コミュニケーション専攻において、キャリア形成授業を立ち上げ、キャリア形成の基礎を学ぶ機会提供並びに社会人基礎力向上に努め、就職に対する取り組み意欲を飛躍的に高める効果を発揮した。

またOB講演会並びに企業講演の内容・回数を見直し、内容の充実と回数を増やし、先輩の活きた就活体験情報や企業が望む人材像等情報を直接学生に伝え、新たな可能性に挑戦するパワー（社会人基礎力の向上）に努めた。

この他、特別講座の実施（講演）、企業説明会の実施（サロン、ブライダル、写真スタジオ、一般企業）、個別相談、面接指導、書類指導を行った。

特に個別相談・面接指導・書類指導等において、キャリア支援センターとして学生個々に可能な限り寄り添い、個別対応の指導環境の強化に努めた。

さらに、Uターン・Iターン就職協定を結んでいる長野県、栃木県、並びに山梨県と連携し、学生へ求人情報提供並びに有力地元企業を本学に招いて企業説明会を開催した。

(2) ゼミナール

特に人間教育に柱を置いて「ゼミナール」では、チームビルディング力、コミュニケーション力、課題解決力等の社会人基礎力の育成を柱とし、少人数制の人間教育、キャリア教育をさらに充実させるべく、手厚い学習サポートと生活サポートを行いながら取り組んだ。

(3) インターンシップ

ヘアサロン、エステサロン、ネイルサロン、一般企業（ブライダル企業、化粧品企業）等へ1年次の夏と2年への進級直前の3月に2週間から1ヶ月程度のインターンシップに参加し、学生が働くことの意義や職場の状況について事前体感するとともに社会人としての意識付けの強化を図った。

令和元年度は、春のインターンシップを美容室のみに留め、他の業界希望者（特に一般企業）は同期間実際の就活に集中した活動指導を行い、昨年度よりも早く就職活動に取り組んだ。参加学生は36社90人（平成30年度は35社123人）であった。研修実施企業として、国内では、化粧品会社、ネイル

サロン、美容室、エステサロン、ホテルスパ、ブライダル会社、写真館、メイクスタジオ、着付け会社、空港関係（免税店）、アパレル販売、海外では、ブライダル、美容室で実施した。

4 授業外活動・地域連携等

必修科目として包括協定を締結している八王子市提供ボランティア活動に16項目の活動に学生51名（延人員）が参加した。

そのほか地域密着として八王子まつり、鑑水の里ふれあい会緑のフェスティバル2019、学生天国、などへ参加した。

また産学連携のPBLとして、平成30年度から引き続き株式会社ES-ROOTS社と山野美容芸術短期大学学生による「オーガニックコスメプロジェクト」を実施展開した。当プロジェクトは学生と企業が連携し、オーガニックコスメの商品開発から販売までを行う総合型プロジェクトで、具体的に「Est Bio Balancing Mist」【肌状態を整える化粧水】の商品設計・開発を行い、販売まで担当実施した。携わった学生は、この体験を通じて、社会で活躍する能力が飛躍的に高められ、企業様からも高い評価を頂けた。

この他、産学連携として地元企業と連携し、7か月間定期的にスチューデントサロンを実施するなど取り組みを進めた。

この他、グローバルな取り組みとしては、アメリカンスクールインジャパン、Annual Student Exchange、西町インターナショナルスクール、クライミング世界選手権八王子2019などで、外国の方を対象にヘアメイク、着付け、お茶体験などを実施した。

5 学生募集

令和2年度入学者獲得のため、オープンキャンパスを在学生在が全面に出る企画構成とし全11回開催したほか、学校見学会、高校訪問、校内・会場進学ガイダンス及びWEBリスティング広告、SNSの活用等を積極的に実施した。また、令和3年度の学科改組に向けて、ブランディングの確立のためコンセプトブック、コンセプトブックムービーを制作し、ブランドのステータス向上を図り、WEBサイトのリニューアルを実施した。令和2年度の入学者数は次のとおりである。

(1) 本科

専攻	入学者	定員	充足率
美容デザイン	87 (0)	160	54.4
エステティック	17 (1)	40	42.5
国際美容コミュニケーション	51 (34)	45	113.3
計	155 (35)	245	63.3

注：（）内数字は、留学生を示し、内数を表す。

(2) 日本語別科（令和元年度実績）

ア 入学者

区分	入学者	定員	充足率 (%)
10月生	14	60	125.0
4月生	61		
計	75		

イ 国別

国名	入学者		計
	10月生	4月生	
中国	9	17	26
ネパール	0	23	23
ベトナム	5	17	22
韓国	0	1	1
ウズベキスタン	0	2	2
カンボジア	0	1	1
計	14	61	75

6 美齢学の構築

「人生100年時代の諸課題を学際的に研究する『美齢学ジェロントロジー』教育」を普及・教授するため、米国USCと青山学院大学、大阪大学、台湾の弘光科技大学と連携し、社会のニーズに対応した教育体制を整備すべく、調査研究を推進した。また、美齢学研究推進のため、特任教授の委嘱を行った。

7 生涯学習等

生涯学習を含めた社会人向けの講座等については、美容福祉事業研究センターを中心に進めた。美容福祉事業の推進のため、特任講師の委嘱を行った。

生涯学習として、地域との連携を含めたハロウィンイベントやプログラム等を開催した。

生涯学習講座としては、地域にある大学コンソーシアムに参画し、八王子市主催の「いちよう塾」において、建学の精神にある美道を軸に「美齡講座」を開講した。公開講座と提供講座として合計23講座を担当し、市民263人の受講生が参加した。

また、次年度以降にリカレントプログラムとして、履修証明プログラムを開設することとし、プログラムの企画検討を進め、規程等の整備を行った。

8 防災・危機管理

防火・防災管理、危険物、自衛消防隊等関係指定表の見直しを行った。

学苑として情報セキュリティの方針を定め、FD／SDにおいて研修を行った。

VR体験車の派遣を受け、防災訓練を実施した。

9 外部資金の獲得

国の助成事業を見据え、前述しているこれらの活動を結び付けることで、本年度も補助金を獲得することができたが、昨年度に比較し、減じてしまった。

健全な運営のための体質改善を含めた改革をさらに進めること、適正な学生確保に努めること、教育の質的転換を進め、私立大学等改革総合支援事業等の補助金など外部資金の獲得を進める。

また、学費収入以外に、社会人や外国人等を対象に、履修証明プログラムや、オンライン教育を活用したリカレントプログラム等の事業の検討を進めている。

《美容専門学校》

1. 学生数

学生数は以下の通りであるが、中でも専門課程の70期生が入学時の548名の内、2年間で151名が退学・除籍・卒業延期等となったことが学生数減少に大きく影響した。

特に前年度に86名が退学・除籍等になったことを猛省すべき点として、今年度は教職員が一丸となって退学防止に取り組んだ。

具体的には、(株)学びの寺裏代表を招いて全教員を対象とした研修を行い、最近の学生の傾向、生徒とのコミュニケーションの効果的な取り方や保護者との連携方法などを学び指導に活かした。

また、生徒指導専門の事務職員と協働し、遅刻や欠席の防止に留まらず、挨拶や教室清掃の徹底をはかり優秀なクラスを表彰するなど、日常的な行動に対する指導を強化した。この結果、前年度に比べて退学率を5ポイント改善することができた。

さらに、高等教育無償化の第1回認定校に選ばれたことは今後、経済的な不安を抱える生徒の退学防止にも寄与するものと考ええる。

課程		入学者数 4月在籍者 数	退学、転出、 除籍者数	卒業延期 留年者数	卒業 進級者数
専門課程	70期	462名	49名	16名	397名
	71期	574名	37名	26名	511名
高等課程	123期	19名	0名	1名	18名
	124期	28名	4名	2名	22名
通信課程		入学300名	94名	—	卒業 84名
		在籍516名			進級638名

退学率推移（専門課程）

年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
退学率	10.3%	9.3%	14.2%	9.3%

2. 学生募集

学生募集は広報委員会と入試課、広報課が主体となって取り組んだが、今年度から入試業務が入試課の業務となり、9月以降に業務が重なったことでパワーが分散した。一方、オープンキャンパスの回数、来校者数は以下の通りで

あるが、高校3年生で見ると前年度に比べて約150名減少した(前々年度比では約350名減少)。歩留率は前年と同様32%前後と、以前に比べ5ポイント以上上がっているが、絶対数の落ち込みが入学者数の減少に繋がったものとする。

さらに、71期生の入学者数に比べ約70名が減少したが、その9割が首都圏の減少数に相当する。入試課(現:広報課)を学生募集に専念できる体制にするとともに、美容専門学校として特に都内の他校と比較して、国家試験の合格率はもちろん、その他の優位性は何か、それをどのように確実に伝えるかを再考しなければならない。

課程	ガイダンス回数	OC回数	来校者数	出願者数	入学者数
専門課程	281回	30回	3120人	525名	504名
高等課程				16名	16名
通信課程				217名	214名

入学者数推移

課程/年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
専門課程	633名	599名	548名	574名	504名
高等課程	27名	28名	26名	28名	16名
通信課程	289名	299名	283名	300名	214名

3. 国家試験合格率

国家試験合格率は春期実施分では全国平均90.0%と同レベルであったが、前年度比では3%以上の減少、都内の美容専門学校の平均合格率94.3%を下回る結果となった。他校の一部が合格基準に満たない生徒に受験させないといった方法で、合格率の向上をはかっているのに対して、当校が卒業資格を得た生徒全員に受験させることを理由とする向きもある。

しかし、「職業実践専門課程の認定校」として、国家試験合格を入学者に対する最低限の保証とするなら、それは言い訳に過ぎない。従来と同様の国家試験対策ではなく、進学塾と同様な意識で、全生徒の合格に向けて傾向と対策(PDCA)を考え、確実に実行し続ける体制を整えなければならないと考える。

課程	受験者数	学科合格率	実地合格率	合格率全体
専門課程	395名			90.3%
高等課程	17名			
通信課程	80名			64.1%

国家試験合格率推移

課程	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
専門課程	92.1%	90.0%	94.8%	93.9%	90.3%
全国平均	94.5%	94.0%	91.1%	91.3%	90.0%

※新卒、春期のみ

4. 卒業後の進路

就職状況は、内定率100%、第一希望内定率60%となった。全生徒の就職活動状況をデータ化し、担任教員と共有をはかりながら個別の指導を強化した。また、昨年5月と今年2月の2回にわたって合同サロン説明会を山野ホールで開催し、延べ10日間で250社の参加となり、生徒の就職に対する意識を高めた。

さらに、生徒に人気の高い有名サロンとの関係性を強化し、OBを含めた現役の勤務者を招聘した講演会や勉強会を開催したことで、LIPPS:10名、OCEAN:4名、GOALD:2名、kakimoto:6名、アクロス:1名と、昨年を上回る内定が得られた。一方、美容師の離職率は就職1年目で50%と非常に高いと言われている。それを考えた時、今後の就職支援については、さらに生徒の適正と就職先サロンの指導・育成体制を考慮したマッチングを進めることが重要である。

《山野日本語学校》

1. 学校の概要

(1) 設置コース

コース名	入学時期	定員
大学進学準備教育1年コース	4月	100名
大学進学準備教育1年半コース	10月	110名
日本語一般1年コース	4月	100名

(2) 教職員数

	専任	増減	非常勤	増減
教員	7人	0	26人	2人
職員	3人	0	1人	0人

(3) 生徒数（下段は昨年）

コース名	生徒数	定員充足率
大学進学準備教育1年コース	33人 (122人)	33% (122%)
大学進学準備教育1年半コース	240人 (254人)	218% (230%)
日本語一般1年コース	99人 (11人)	99% (11%)
計	372人 (387人)	120% (125%)

(4) 生徒数（地域別、下段は昨年）

中国	ベトナム	フィリピン	ネパール	他	計
72% (77%)	11% (10%)	3% (3%)	6% (7%)	8% (6%)	100%

2. 事業の概要

- (1) 山野日本語学校はわが国の大学、専門学校へ進学するための日本語教育及び基礎教育を行う、大学進学準備教育1年コース及び大学進学準備教育1年半コースとわが国の大学、専門学校への進学するための日本語教

育を行う日本語一般1年コースを設置している。

日本語能力試験(N2以上)の状況(延べ人数、下段は昨年)

受験者数	204人 (183人)
認定者数	77人 (71人)
合格率	38% (39%)

進学状況 () カッコ内は昨年

大学院	大学	短期大学	専修学校
17人(10)	35人(29)	5人(5)	91人(86)

※ 主な進学先

大学院：東京大学、東北大学、静岡大学、北陸先端科学技術大学院大学、慶応大学、明治大学、目白大学、桜美林大学、城西国際大学、ハリウッド大学院大学

大 学：東京外国語大学、宇都宮大学、横浜市立大学、慶応大学、中央大学、法政大学、東洋大学、専修大学、国土館大学、拓殖大学、西武文理大学、流通経済大学、麗澤大学、東京情報大学、文京学院大学、中央学院大学、日本経済大学、至誠館大学、東京福祉大学、国際医療福祉大学、桜美林大学

- (1) 日本語教育のみならず、日本の文化や風習、日本人の考え方を理解することも重要視し、同学苑内の山野美容芸術短期大学、山野美容専門学校、山野医療専門学校と積極的に交流を行った。

山野美容専門学校、山野医療専門学校とは合同の学苑祭を行い、直接日本人との共同の作業を行うことで日本人に対する理解を深めた。

- (2) 学生募集においては、進学実績を上げるために増やしていた、中国学生の比率を若干減らし72%とした。しかし、良い学生を選ぶことで引き続き進学実績は向上した。また、日本語能力試験の合格率は、ほぼ前年と同様であるが、既にN2以上を取得している学生の入学が多くなっていることが原因であると思われる。